

学校目標・経営方針	自主・自律の精神と創造性を尊び、幅広い知性と豊かな人間性の涵養を図るとともに、常に自己と社会をよく見つめ、高い理想のもと広く社会で活躍する人材を育成する。
-----------	---

本年度の重点目標	1 学び方を学ばせる視点のもと、主体性を引き出す深い学びを推進し、批判的な思考を通して、本質を粘り強く追究しようとする探究的に学びとる力の育成に努める。
	2 自己実現を図る進路目標の設定とその達成に向けた取組を支援し、自分の立ち位置を知り、自己の可能性を切り拓く意欲の醸成に努める。
	3 部活動や学校行事、学校外活動など、様々な経験ができる機会を提供し、他者を思いやり認め合いながら、人との関わりの中で成長できるよう努める。
	4 PTA・同窓会・地域・高等教育機関などとの連携を深め、国際バカロレアの趣旨を生かすなど、時代のニーズに応える特色ある教育活動の構築と推進に努める。
「自分を律し、自己を高めていく」人間力の育成を目指し、右の通り取り組む。	

達成度	A	ほぼ達成できた。(8割以上)
	B	概ね達成できた。(6割以上)
	C	不十分である。(4割以上)
	D	達成できなかった。(4割以下)

評価	4	良くてきている。
	3	できている。
	2	あまりできていない。
	1	できていない。

自 己 評 価						
本年度の重点目標				年度末評価(2月18日現在)		
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策
1	個別最適な学びや協働的な学び、探究的な学びなどをとおした主体的に学ぶ力の育成	「問いを立て追究する」という生徒の探究力向上を目指し、深い学びを提供する授業改善に取り組む。	教員の自己評価 教員アンケート 授業アンケート	・教員は探究的学習を意識した授業改善を継続して行っており、多くの生徒が学習の深まりを実感できている。 ・教員はICT機器の利活用への意識を高く持ち、ICT機器を有効活用した授業実践に取り組んでいる。生徒も、授業や家庭においてICT機器を活用している。 ・課題論文についてはこれまでの指導経験の蓄積を踏まえ、指導計画も修正を加えてより効果的なものへと改善している。生徒の課題研究論文は質が高いものが増えている。	A	・教育センターや校内における研修会、県内外の視察等を通してさらなる授業改善への取組を進めていく。 ・それぞれの教員におけるICT機器のさらなる効果的な活用方法を探っていく。 また、年数を経た機器の更新も課題である。 ・生徒の意見も反映しながら、課題研究論文への取組が生徒の進路選択の可能性を広げられるようにさらに改善していく。
		教員のICT活用指導力の向上を図り、各教科等の目標を達成するためにICTを活用する。	教員の自己評価 教員アンケート 授業アンケート			
		課題論文やIBを中心に据えながら、探究型学習プログラムや教育課程の開発整備を進める。	教育課程の編成 課題論文の指導計画 学校評価アンケート			
2	自分の立ち位置を知り、自己の可能性を切り拓く意欲の醸成	生徒の学力向上に資する指導改善に向け、学びの基礎診断の結果をもとに生徒の基礎学力の分析と学力向上対策を適切に行う。	学力到達ゾーン指標の変動 教員相互の授業評価シート 学校評価アンケート	・学びの基礎診断や模擬試験の結果は、学力到達度や問題別正答率等の分析をもとに今後の課題と対応策を教員間で共有し指導に生かしている。 ・各種講演会や進路ガイダンスは計画に則り適切に実施され、生徒の興味関心を高め高校卒業後の人生を考える進路選択の役に立っている。 ・生徒は学習手帳を有効に活用して、自己管理に努めている。また、各種面談の適時実施により適切な指導が行われている。	B	・定期試験や学びの基礎診断の結果に基づいて教科間の連携を図り、生徒の学習量のバランスを調整するなどの配慮をした指導をしていく。 ・土曜講座の実施にあたっては、内容や方法について検討し、必要な見直しを行う。 ・学習手帳の利用等により生徒のタイムマネジメント意識の向上をさらに図っていく。
		進路講演会や進路ガイダンスを適切に配し、入試等への理解度を高めるとともに、目標達成に向けた学力向上に資する課外や講座等を効果的に実施する。	大学等合格状況 学校評価アンケート			
		目標を意識し、その達成に向けて自主的に取り組む自己管理能力を向上させるため、学習手帳の利用を進め、面談や個別指導等に活用する。	学校評価アンケート			
3	部活動や学校行事、学校外活動などにより、他者を思いやり認め合いながら、人との関わりの中での成長を支援	豊かな人間性や人間関係形成能力の育成を図るため、生徒及び指導者のワークライフバランスの視点から学校行事や部活動等のあり方を見直すことにより、生徒の主体的な取組を促す指導を推進する。	学校評価アンケート	・生徒の学習活動と部活動の両立のための工夫と努力を継続している。また、学園祭などの学校行事も安全に配慮して行われ、生徒の主体性を育成する場となっている。 ・異校種間交流として盲学校の学園祭や、地域との交流として地元公民館で演奏を披露する取組を行うことができた。 ・保健安全部と年次が密に連携してきめ細やかに教育相談や指導にあたっている。また、スクールカウンセラーを効果的に利用できている。	B	・ICT等を活用した業務改善を進め、教員が生徒と向き合う時間を確保する取組を推進する。生徒にとって最適な部活動の在り方について共通理解をして実施することが必要である。 ・校外におけるボランティア活動など、生徒が様々な経験をすることができる活動の情報提供に努め、参加を促す。 ・スクールカウンセラーや関係機関との連携を図り、悩みを抱える生徒のサポートに努める。また、生徒のプライバシーに配慮しつつ、生徒の情報を共有して教員集団で解決に向けて取り組む。カウンセリングを希望する生徒の増加への対応を検討する必要がある。 ・豊かな人間性や人間関係形成能力については様々な機会を通して指導していくことが必要である。
		社会の一員としての自覚、社会参画への意欲などの醸成に向け、地域貢献や異校種間交流、ボランティア活動など、様々な体験ができる機会を提供する。	行事開催状況 学校評価アンケート			
		悩みや問題を抱える生徒の早期発見に努め、教職員間及び外部機関との連携を密にして、生徒一人一人の学校生活をサポートする。	生活実態調査 学校評価アンケート			
4	PTA・同窓会・地域・高等教育機関などとの連携を深め、国際バカロレアの趣旨を生かした特色ある教育活動の構築と推進	グローバル化の進展やデジタルによる社会の変革など時代の変化などに対応する素養を身に付けさせるため、PTA、同窓会、地域、大学や企業等との連携を図り、各種講演会など多様な学びの機会を提供する。	学校評価アンケート	・同窓生や大学などと連携して行った各種講演会やガイダンスは生徒にとって有意義なものとなっている。 ・1年次生に対して実施されたブレIB講座により、IBへの理解を深め、関心を高めることができた。 ・ホームページによって教育活動の内容や学校からの情報が適切に保護者等に発信されている。	B	・各分野で活躍する同窓生との連携を密にとり、生徒への多様な学びの機会の提供を充実させていく。 ・ブレIB講座を継続するとともに、IB生の発信する情報をより多くの生徒に届け、IBの良さを共有できるようにする。 ・ホームページを中学生とその保護者への情報発信の場としても捉え、本校のことをよく知ってもらえるよう改善していく。 ホームページを更新する頻度を高める必要がある。
		本校の特色化を図り、知的好奇心や探究心などの育成につなげるため、新入生に対してブレIB講座を実施するなど、IBの良さが共有できる教育活動を展開する。	ブレIB講座実績 学校評価アンケート 授業アンケート			
		教育活動の充実改善に生かすため、ホームページを情報発信に留めず、双方向的に利用し開かれた学校づくりに有効に活用する。	HPアクセス数 学校評価アンケート			

学校関係者評価	
実施日 (令和7年3月4日)	
評価	意見・要望等
4	・生徒が自身の興味に応じてテーマを設定する課題論文は、大学進学の際の学部・学科の選択を超えた、もっと大きな可能性につながっていると思います。ますます充実することを期待します。 ・教職員は探究的学習を目指したカリキュラムの構成について資料に基づいた説明より理解できた。課題論文についても前年に比べより層質の高い内容の説明と提出された論文からより深みのある内容になっていることが理解できた。 ・課題論文やIBを中心とした探究型学習プログラムや教育課程の整備により、生徒の探究および論文の質が向上し、進路選択の幅が広がるとともに、実践的な学びが促進されていることは高い評価に値すると思います。2025年には課題論文のガイド改訂もあると思いますので、ワークショップへの参加はもとより、実践コミュニティ内の勉強会の実施など、大学としても協働の幅を広げさせていただきたいと思っています。 ・鳳凰会を通じて、個々が自分の学びたいことを自己探究する姿勢、そしてn-Questの実施によってアウトプット、他生徒にも主体的に学ぶ方法を共有することができていると感じます。また国際バカロレアを選択している生徒はもちろん、学校全体が国際バカロレアの教育に沿った学習内容を取り入れていることから、この項目が達成できていると考えます。
	・自分の立ち位置を知る、という、集団の中での自分の位置づけ的なイメージを持ちます。「自己を知り、自己を深める」における自己と、自分の立ち位置とは、ズレがあるような気がします。 ・生徒に対する将来の進路への適切な指導を行うための講演会や進路指導等に多方面から指導を行っており自主的、主体的な目標をもたせる指導をしっかりと行っています。 ・客観的なデータに基づく指導は、生徒の学力向上に直結し、効果的な学習支援を可能にしていると思います。また、進路指導に関してですが、先日、別のIB高校から依頼を受け、本学の学生が高校に入学し、大学生活やIB教員への道を含むキャリア形成について高校生に話をする機会をいただきました。年齢の近い大学生からの話は有用なガイダンスであると感じました。このような取り組みについてもご検討いただければ幸いです。 ・進路ガイダンスによる活躍している最前線の方々の話を聞く機会が多々あることなど進路についての可能性を柔軟に考えられる環境が備わっていると感じます。担任との三者懇談、進路相談の機会も多く、一人ひとりに合わせた勉強の方法、将来への学びを提示してくれると考えます。また、学習手帳により自分の未来像の構築、学習方法の復習を生徒自身が行うことができたこともとても良いと感じます。
	・さまざまな取組の大きいなる成果を感じました。一つ一つの取組が校風をつくり、その校風の中でそれぞれの取組が行われます。生徒と職員の皆さんで西高らしい校風を築いてほしいと思います。 ・コロナ禍後、部活動・学校行事・学校郊外活動が活性化している中、生徒の学習活動と部活動等の両立のための工夫・努力に大変御苦労されていることが推察されます。今後共にあらゆる機会をベースとして生徒には「心」豊かな状態で学校生活を過ごしてもらいたいと思っております。 ・学習活動と部活動を両立するための工夫が継続されており、ICTの活用により教員と生徒とのface to face の時間を確保しようという努力もあり、生徒が充実した学校生活を送れる環境が整えられていると思います。IB World SchoolならではのCASにインスパイアされた校外活動などに、より多くの生徒が参加できるようになることで、総合型入試等への進路選択の幅も広がる可能性があるかと期待できます。 ・数多くの部活動が存在し、無理なく楽しく学業と両立しながら取り組める環境。そして、鳳凰祭や体育祭などのイベントが定期開催されていることで、クラス間での結束も強まり、その過程において他者と協働する機会も多くあります。この過程の中でこの項目を達成できていると考えます。
4	・私は西高在職中、「西高は卒業生を大事にする学校でありたい」と言っていたが、具体的な内容は曖昧でした。西高生のこれからの人生に思いをいたすことである、と今では思っています。 ・本校の特色である「国際バカロレア」の教育方針に則って行われているこの施策は大きな効果を上げていると考えております。これからの生徒の人間形成に重要な影響を及ぼすと思われる時期、特に生徒の生活環境は家庭・学校という限られたコミュニティに制限されている中で地域、住民のかかわりにより知識や考え方に幅広い柔軟性や創造性等を広げいく必要性があり教職員の方々もその認識のもとこの取り組みを進める努力をしていることが同えます。 ・甲府西高では国際バカロレア(IB)の理念を活かしながら、各方面と連携し、特色ある教育活動を推進しています。しかし、日本の社会全体としてはまだまだIBの知名度は低く、教育に携わる人でさえもフランスのバカロレアと混在して話れる人がいらっしゃるほどです。高校として重要なターゲットである中学生やその保護者がアクセスしやすく、学校の特色を伝えやすい形式で、より効果的な情報発信を継続的に行っていくことが期待されます。 ・国際バカロレアの教育をバカロレア選択者に限らず学校全体がその特色を取り入れた教育をしており、これは全生徒に将来につながる学びの方法を教えることに繋がっています。

留意点 (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。
(2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。